

【国内初】 エチオピア連邦民主共和国への スポーツによる支援プロジェクト始動のお知らせ

笠間市は、東京2020オリンピック・パラリンピックのホストタウンとして、これまでエチオピアとの友好関係を築いてきました。

このたび、関係機関の多大なる協力のもと、スポーツを通じてエチオピアの子どもたちの健康や教育に貢献するとともに、日本とエチオピアの相互理解や友好を促進することを目的とした支援プロジェクトを開始します。

1.プロジェクト名

～足音の絆～ 陶芸の里からエチオピアの未来を繋ぐ

Way of Hope Project

2.プロジェクト概要

①ランニンググッズの配付支援(添付資料①参照)

笠間市で毎年開催している「かさま陶芸の里ハーフマラソン大会」は、12月17日(日)に今年も開催されます。今大会から、不要になったランニンググッズを参加者から回収する活動を行い、回収したグッズを笠間市とハーフマラソン大会実行委員会が選別後に輸送し、マラソン強豪国であるエチオピアの人々へ配付※1します。また、市役所および各支所にも回収ボックスを設置して市民の方のご協力もお願いします。

この支援は、ランニンググッズのリサイクルやリユースを促進し、環境保護や国際協力に貢献することを目指しています。ランナーの皆さんには、この活動にご協力いただき、世界の人々とのつながりを感じていただきたいと考えています。

②古くなったスケートボードの配付支援(添付資料②参照)

ハーフマラソン大会会場の笠間芸術の森公園内にある「ムラサキパークかさま」の指定管理者である株式会社ムラサキスポーツと、在エチオピア日本大使館の協力を得て、今までその大部分が処分されていた「古くなったスケートボード」を、エチオピアのスケーターガールズ※2に配付します。

この支援は、株式会社ムラサキスポーツの社会貢献活動の一つとして実施され、スケートボードを通じてエチオピアの女性の地位向上や女性スケートボーダーの可能性の拡大に貢献すること、さらに、寄付活動が世界に広がることを目的としています。配付するスケートボードは、ムラサキパークかさまで使用されたものや、スケートボーダーから寄付されたものをムラサキパークかさまがスケーターガールズに寄付し、彼女たちの現地での活動に再利用させていただくというものです。

3.今後のスケジュール(予定)

- ・9月～12月 ランニンググッズ及びスケートボードの回収
- ・令和6年1月～2月 在エチオピア日本大使館へ輸送
- ・令和6年2月～3月 エチオピア国内で配付

※1:エチオピア国内での配布はユニセフなどのパートナーが支援します。

※2:スケーターガールズ:エチオピアン・ガール・スケーターズのこと。

女性が自立して活躍できる社会を作り上げることを目標に活動するエチオピアの少女たちの団体で、ユニセフエチオピアの支援を受けています。スケートボードに取り組み、SNSを通じてその活動を世界に発信しています(添付資料③参照)。

【協力】

- ・株式会社ムラサキスポーツ
- ・かさま陶芸の里ハーフマラソン大会
実行委員会
- ・駐日エチオピア大使館
- ・在エチオピア日本大使館
- ・スケーターガールズ
- ・ユニセフエチオピア

この件に関するお問い合わせ

笠間市教育委員会 教育部 生涯学習課 スポーツ振興室 担当：山本(明)・小林

電話番号：0296-77-1101 (内線393) ファックス番号：0296-71-3220 e-mail：sports@city.kasama.lg.jp



Way of Hope Project ①



<目的>

かさま陶芸の里ハーフマラソン大会では、今大会から参加者が不要になったランニングシューズやTシャツ等を回収する活動を行います。回収した物は現地の人々へお送りします。この活動は、環境保護と国際協力の両方に貢献するものです。

<取組み内容>

1. 回収ボックスの設置



大会当日、会場内に回収ボックスを設置します。参加者は、不要になったランニングシューズやTシャツを自由に投入できます。参加者へは事前発送物、大会HP、SNSで回収ボックス設置を周知します。



2. 回収物の仕分けと梱包



大会終了後、回収ボックスから回収物を取り出し、仕分けと梱包を行います。仕分けは、ランニングシューズとTシャツ等に区別します。梱包は、段ボール箱に詰めて、送付先や内容物を記載します。



4. エチオピアでの配布と報告



在エチオピア日本大使館が段ボール箱を受け取り、ユニセフ等の他機関と連携して現地の人々に配布します。配布時には、写真やビデオなどで記録し、笠間市に報告します。報告は、大会HPやSNSなどで公開し、参加者や関係者に感謝と成果を伝え、次回に繋がります。



3. 回収物の発送と追跡



梱包した段ボール箱を在エチオピア日本大使館等に発送します。発送方法は、航空便か海上便を予定します。発送後は、荷物の追跡番号を確認し、到着状況を把握します。



Way of Hope Project ②



<目的>

笠間芸術の森公園に併設される「ムラサキパークかさま」の指定管理者である株式会社ムラサキスポーツが、これまでは、その大部分が処分されていた「古くなったスケートボード」をエチオピアのスケーターガールズに配付します。

<取組み内容>

1. 回収ボックスの設置



株式会社ムラサキスポーツが笠間市の指定管理者として管理運営する「ムラサキパークかさま」の協力により、古くなったスケートボードをパーク利用者などから回収します。



2. 回収物の選別



ムラサキパークかさまが、その専門性を活かして回収物を選別し、段ボール箱などに梱包します。



4. エチオピアでの配布と報告



スケーターガールズ団体がスケートボードを受け取り、配布の様子を記録し、株式会社ムラサキスポーツや笠間市に報告するとともに、SNSなどで、その後の活動を継続して発信し、寄付活動が世界に広がることに繋がります。



3. 回収物の輸送



梱包した段ボール箱を在エチオピア日本大使館に発送します。発送方法は、航空便を予定します。輸送に関してはユニセフとパートナーシップをもつスケーターガールズが受け持ちます。



Way of Hope Project ③



エチオピアン・ガール・スケーターズ(Ethiopian Girl Skaters: EGS)

○背景

アフリカの大国であるエチオピアは人口1億2千万人以上を誇り、アフリカの中でも2番目に人口の多い国である。エチオピアに暮らす女性たちは多くの障壁に直面しており、ジェンダーによる差別に苦しみ、スポーツに自由に参加することも難しい状況である。

○エチオピアン・ガール・スケーターズとは？

エチオピアン・ガール・スケーターズ(Ethiopian Girl Skaters: EGS)は2020年にエチオピア人女性のソシナ・チャラ(20歳)によって設立された。女性のみによる団体で、女の子たちが安全で平等に扱われる空間で自由にスケートボードを練習できる環境を提供している。EGSは他にもメンターシップ、心理社会的支援(カウンセリング等)、学費支援、地域イベントなど多様な活動を実施している。彼女達の目標は社会的な障壁を打ち破ることで女性が自立して活躍できる社会を創り上げることである。スケートボードの活動を通して、エチオピアにおけるジェンダー平等を促進し、社会的規範の改善に立ち向かっているのである。また彼女たちは自信を持ち、逆境に立ち向かう強さを身につけ、自律性を高めることで、典型的な性差別に対抗して支えあえる社会の実現を目指している。

○ムラサキパークの支援がもたらす効果

ムラサキパークかさま店のスケートボード寄付によって、EGSは活動範囲をエチオピア国内に広げることができる。現状では首都のアディスアベバ市内と2つの地方都市で活動しており、限られた数の古いスケートボードをメンバーは交代で使っている。例えばアディスアベバ市における活動では古い11枚のスケートボードを35人のメンバーで共有しなければならない。国内の他の地域にも活動を広げたいと考えているがそれもまだ難しい状況である。今回のスケートボードの寄付によって、メンバーの練習の機会を増やすことができ、他の地域に暮らすさらに多くの女の子たちが活動に参加できるようになる。

「ムラサキパークかさま店様からの寛大な寄付にはとても感謝しています。」とEGS創設者のソシナ・チャラ氏は話す。「今回の寄付によってスケートボードに興味のある女の子たちの人生に大きな変化を起こすことができます。彼女たちはスケートボードを使って練習できることで自分の夢を追うことができるようになるからです。」

以上